

8月4日(水曜日)

ドル/円

米2年債利回りが方向感の鍵

3日(火)の主な推移

チャート: 30分足 3日(火)朝6時 ~ 4日(水)朝6時

ダウ平均株価

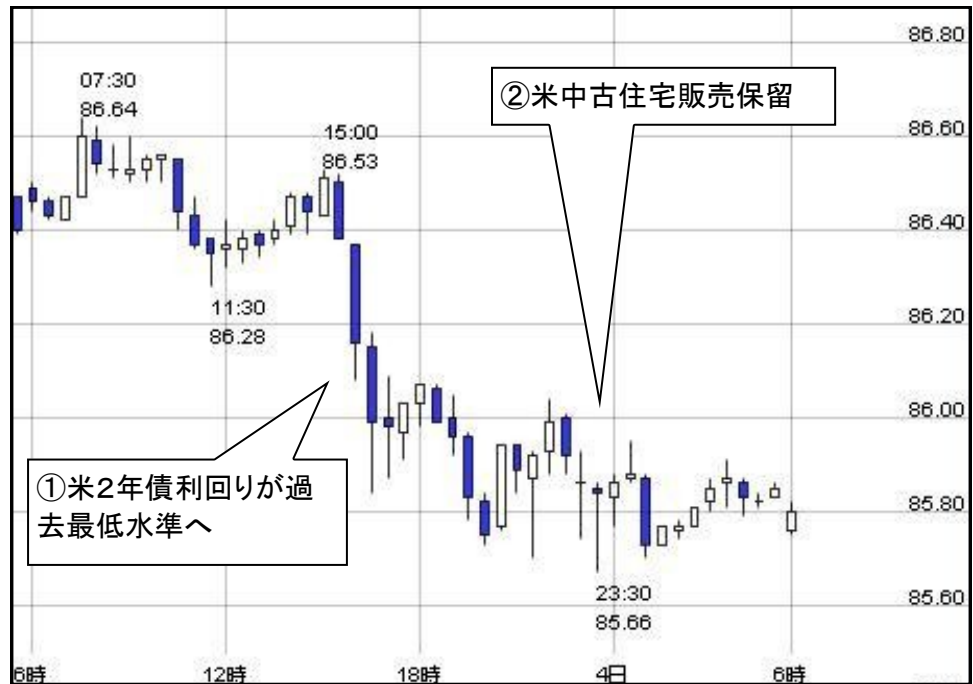
10636.38ドル
(-38.00ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

2.9103%
(-0.0578%)

NY原油先物

82.55ドル
(+1.21ドル)



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

- ① 米紙ウォール・ストリート・ジャーナルが「来週10日の米連邦公開市場委員会(FOMC)にて、米連邦準備制度理事会(FRB)が追加金融緩和に踏み切る可能性」と報じたことをきっかけに米2年債利回りが過去最低水準まで低下したことや、欧米株価が安寄りしたことなどを背景にドル安・円高が進行した。
- ② 21時30分に発表された米国の6月個人支出が前月比±0.0%と市場予想の+0.1%を下回ったことなどを背景に米国株が寄り付きから軟調に推移する中、23時に発表された米6月中古住宅販売保留が前月比-2.6%と、市場のプラス予想(+4.0%)に反してマイナスだったことを受け、ドル/円は下落。一時85.67円の年初来安値を更新した。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米国経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加緩和観測
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米国経済の回復の鈍化
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 85.40— 86.60円

本日のドル/円の方角の鍵を握るのは米2年債の利回りとなりそうだ。昨日3日のドル/円相場が85円台半ばまで下落した背景として、米2年債利回りが過去最低水準まで低下したことが大きいとみられる。本日は米7月ADP全国雇用者数やISM非製造業景況指数など米国の主要経済指標発表が予定されているが、これらの結果を受けたドルの売買というよりは、米国の金利動向がドル/円の方角性を決める材料となりそうだ。

また昨日、来週10日の米連邦公開市場委員会(FOMC)にて追加の緩和策が打ち出されるのでは、との観測が浮上し、ドル/円の下落の一因となった。現状、この追加の緩和策として言われている「住宅ローン担保証券(MBS)や米国債の買い入れ」だが、これは米連邦準備制度理事会(FRB)が保有するMBSのうち、近々償還を迎えるものがあり、その償還された資金を再び買い入れに回すというもので、厳密には「新たな緩和策」といえるか微妙なところ。ただ、「償還資金による資産買い入れ」が濃厚になれば、現状の市場では追加緩和期待が高まりやすく、ドルは売り優勢になると考えられる。また、最近では米国のデフレリスクに対する懸念も浮上してきており、ドル売り要因となる場面がみられている。関連報道にも十分注意を払っておきたい。(ジェルベズ)

本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
8/4(水)	18:00		(ユーロ圏) 6月小売売上高[前月比]	+0.2%	±0.0%
	18:00		(ユーロ圏) 6月小売売上高[前年比]	+0.3%	+0.1%
	21:15	◎	(米) 7月ADP全国雇用者数	+1.3万人	+3.0万人
	23:00	○	(米) 7月ISM非製造業景況指数	53.8	53.0

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com